

所 信 表 明



丹波市長 林 時彦

令和6年（2024年）12月12日

1 はじめに

本日、第 138 回丹波市議会定例会が開会されるにあたり、市政運営に対する所信の一端を表明する機会を賜りましたことに、心より感謝を申し上げます。

私は、先の市長選挙におきまして、市民の皆さまから 2 期目のご信任を賜り、引き続き、市政運営を担うこととなりました。再びこの場に立ちますと、改めて、4 年前に多くの市民の皆さまから寄せられた期待の大きさと責任の重さに、身の引き締まる思いであったことが、鮮明に蘇ります。それは今も変わらず、愛するふるさと丹波市のリーダーとして、今後 4 年間の「かじ取り」を担う決意を新たにするとともに、丹波市を良くしていくため、選挙でいただいた様々な声を胸に、強い気持ちを持って市政を前に進めてまいる所存です。

丹波市は、平成 16 年 11 月に誕生して以来、平成から令和へと時代の移り変わりの中で、歴代の市長をはじめ、市議会議員や市民の皆さまの想いと力を結集し、一つひとつの課題を乗り越え、本年、市制施行 20 周年を迎えることができました。ここに改めて、丹波市の発展にご尽力を賜りました多くの皆さまに、深く敬意と感謝を表します。

2 一期目の振り返り

1 期目 4 年間の歩みを振り返りますと、新型コロナウイルス感染症への対応で、難しいかじ取りからのスタートとなったことが思い出されます。特に任期前半は、日々、刻々と変わる新型コロナウイルス感染症への対応と対策に注力せざるを得ない状況であり、社会は考えていたよりも脆弱で、日常の生活は当たり前が続かないということを痛感いたしました。

一方で、医師会をはじめ、最前線に立つ医療従事者や関係者とともに、迅速な新型コロナワクチン接種体制の確立や感染対策の実施、市民や事業者への支援などに取り組めたことで、地域全体で力を合わせて柔軟に対応することの重要性を実感することができました。

そのような中において、「子どもたちに誇りをもって帰ってこいよと言えるまち」の実現に向け、粘り強く取組を進めてまいりました。

その一例を申し上げますと、県内で最も高い、市の指定ごみ袋料金につきまして、住み良いまちづくりを進めるため、紆余曲折を経ながらも、半額化を実現し、市民の皆さまの経済的負担を軽減しました。このことにつきましては、燃やすごみの減量化を進めるため、市民の皆さまに率先してごみの分別を進めていただくなど、多くのご協力をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。

さらには、丹波市の宝である子どもや子育て世代を応援するため、

地域を挙げて新しい命の誕生をお祝いするハッピーバース手当や、18歳までの全ての子どもの医療費無償化を実施しました。その他にも、路線バスを中心とした公共交通の最適化により、兵庫県立丹波医療センターへのアクセスの改善についても着実に取組を進めてまいりました。

また、人口減少が進む中で、地域における大きな課題の一つである草刈りの問題では、丹波市らしい里山の景観維持や獣害対策、住民自治の担い手の負担軽減といった観点から、職員と沢山の議論を重ねて知恵を出し合い、自治協議会や市民の皆さまの協力を得ながら、課題の解決に向けた具体的な取組が始まるなど、多くの難しい課題がある中で、解決の兆しが見えてきたものもありました。

このように、1期目は試行錯誤の中で、私の思いはそのままに、知恵を出し合いながら、「形」を変えて様々な施策や取組を実現できたことで、解決するために何が必要なのか、どうすれば実現できるのかなど、前向きに議論を重ねることの大切さを実感した次第であります。

また、学校給食費の無償化や庁舎のあり方など、1期目でいただいた様々なご意見、ご提案につきましては、市民や市議会議員の皆さまと議論を重ねながら、論点整理を進めてまいりたいと考えております。

3 市政運営の柱

私が取り組んでまいりました1期目の実績と経験を2期目の市政運営の推進力に変え、市民の皆さまの期待と信頼に応えられるよう、市政運営の柱となる考え方は、次の3点に集約されます。

まず1点目は、「市民第一」であります。市民の誰もが住み良いまちづくりを進めるために、市民の皆さまの声を聴き、寄り添い、結論を得て、ともに前に進む。この考え方を市政運営の基本として、全ての市民が住み続けたい、住んで良かったと思えるまちづくりを進めてまいります。

2点目は、「実行していく市役所」であります。1期目の4年間、職員との一体感を大切に考え、常に市長室のドアを開け、風通しの良い組織風土づくりに取り組みました。2期目は、この市役所組織の能力をいかに発揮し、行政のプロフェッショナルである職員と「市民第一」を共有しながら、着実に成果が得られるよう、地域や行政における課題の解決に努めてまいります。

3点目は、第3次丹波市総合計画に掲げた「まちの姿の実現」です。まちづくりにおける最上位計画である第3次丹波市総合計画は、市民の皆さまとともに作りあげる計画として、丹波市の将来を担う子どもから大人まで、多くの方に関わっていただきながら、9月の市議会において議決をいただきました。令和7年度から始まるこの第3次丹

波市総合計画が示すまちの将来像「まなび ときめく 丹（まごころ）の里 ～ しあわせ輝くみんなの未来へ～」は、丹波市に関わる全ての皆さまの願いそのものであり、その実現への歩みは、市民一人ひとりの「しあわせ」の実感につながるものと確信しております。

そのため、各分野別計画の策定や予算編成において、活発な議論を行い、女性や若者の活躍支援、オーガニックビレッジやゼロカーボンシティの実現、地場産業に対する支援、身近な健康づくり、快適で便利な行政窓口への改革など、それぞれの分野で市民一人ひとりに「しあわせ」を実感いただけるよう、果敢に実行してまいります。

4 丹（まごころ）の里創生に向けて

今、日本国内では、人口減少や少子高齢化が急速に進行しております。人口減少は、市民生活に最も身近な基礎自治体において、様々な市民サービスに直結する大きな課題であります。

丹波市におきましても、人口減少は避けられるものではなく、若者、特に女性の流出が大きな課題となっており、このまま何も対策を行わなければ、丹波市の人口は2060年に33,595人まで減少することが推計されております。

このような状況にあっても、丹波市に住む価値や魅力を向上させることで、多様な人材を呼び込み、交流やにぎわいを創出し、地域活力

を維持・向上させていく必要があります。その取組こそが、女性や若者に選ばれる住み良いまちをつくり、人口構成の若返りや人口減少スピードの緩和、延いては、人口が減っていく中においても活力ある持続可能なまちに繋がっていくものでございます。

そのためにも、「市民第一」の考えのもと、市民の皆さまに寄り添いながら、年代に応じたきめ細やかな支援を直接届けてまいります。このような取組は、多様性の時代の、多様な暮らしを実現し、誰もが自分らしく暮らせるまちづくりへの投資でもあります。

5 むすびに

私の考える丹波市の良いところは、地域コミュニティの希薄化が叫ばれる現代社会にあっても、「おかえり・ただいま」の言葉で、お互いの心が通い合うまちであることです。このことは、丹波市における日常の営みであり、原風景です。このような暮らしを守り、育むことが私の目標であり、使命であります。私一人の力でこれを実現できるものではなく、まちづくりの歩みを進めていくためには、市民や市議会議員の皆さまのご理解とご協力が必要不可欠でございます。

これまで多くの方が築き上げてこられた丹波市を守りつつ、今を生きる私たちの世代が、誇りをもって子や孫たちの世代に繋いでいけるよう、まちの魅力をなお一層磨きあげ、住み良い丹波市の実現に向け

て、「オール丹波市」で取り組まなければなりません。

子どもから大人まで丹波市で暮らす全ての人が、このまちに生まれて良かった、住んで良かったと感じ、丹波市に関わる全ての人に、「帰ってこいよ！丹波市へ」、「みんなおいでよ！丹波市へ」と言いたくなるような、「しあわせ」を実感できるふるさと丹波市の実現に向け、大胆でありながらも市民に寄り添ったきめ細やかな市政運営に取り組んでまいります。

以上、これからの4年間の市政運営にあたり、私の基本的な考え方を申し上げました。市民の皆さま、市議会議員の皆さまのなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、私の所信表明といたします。